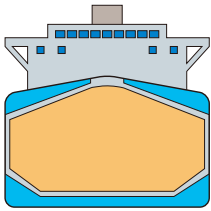


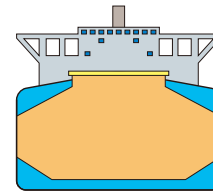
LPG船(エル・ピー・ジーせん)

プロパンやブタンなどを液化(えきか)したLPG(液化石油ガス)を運ぶ。輸送(ゆそう)方式には常温(じょうおん)で加圧(かあつ)して液化する加圧式、常圧(じょうあつ)で冷却(れいきゃく)して液化する冷却式および半冷加圧式があるが、大型LPG船はすべて冷却式。



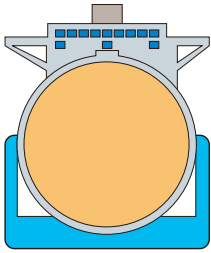
鉱炭兼用船(こうたんけんようせん)

製鉄(せいてつ)原料の石炭と鉄鉱石(てっこうせき)を運ぶ。鉄石専用船(こうせきせんようせん)同様、大型化が進んだ船種で、最近は製鉄原料輸送(ゆそう)の主力。鉄鉱石と比べてはるかに比重(ひじゅう)の小さい石炭も運ぶため、鉄石専用船より積み荷スペースは広い。



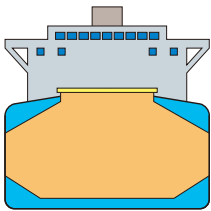
LNG船(エル・エヌ・ジーせん)

天然ガスをマイナス162℃の超低温(ちようていおん)で液化(えきか)したLNG(液化天然ガス)を運ぶ。超低温輸送(ゆそう)のための特殊(とくしゅ)な材質(ざいしつ)のタンク、荷役時の事故(じこ)を防(ふせ)ぐ緊急遮断装置(きんきゅうしゃだんそうち)など、先端技術(せんたんぎじゅつ)を駆使(くし)したハイテク船。



石炭専用船(せきたんせんようせん)

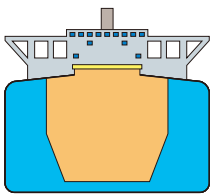
石油にかわるエネルギーとして近年比重が高まる電力用石炭の効率輸送(こうりつゆそう)に活やくする専用船。日本の発電所向けの輸送に最適(さいてき)な船として設計(せっけい)されている。現在(げんざい)、日本とオーストラリアなどを結んでいる。



原料を運ぶ船

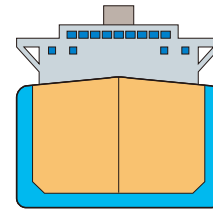
鉄鉱石専用船(てっこうせきせんようせん)

鉄鉱石(てっこうせき)を専門(せんもん)に運ぶ船。鉄鉱石は比重が極端(きょくたん)に大きいため、積み荷スペースをせまくし、船体中央部に積み荷を高く積み上げられるようになっている。最大級のものでは30万重量トンの超大型船(ちようおおがたせん)もある。



ケミカルタンカー

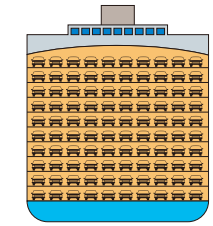
プラスチックや化学繊維(かがくせんい)の原料となる石油化学品、硫酸(りゅうさん)など液状(えきじょう)の化学品を運ぶ。腐食(ふしょく)や貨物同士の汚染(おせん)を防(ふせ)ぐため、ステンレスを用いたり、特殊(とくしゅ)なコーティングを施(ほどこ)すなど、タンク内も工夫されている。



製品(せいひん)を運ぶ船

自動車専用船(じどうしゃせんようせん)

自動車を専門(せんもん)に運ぶ船。貨物となる自動車を専門のドライバーが運転し、船側のランプウェイから船内に積みこむ。船内は何層(なんそう)ものデッキに分かれ、屋内駐車場(おくないちゅうしゃじょう)のような構造(こうぞう)をしている。



重量物船

重い貨物を自力で積み降(お)ろせるよう、強力な荷役装置(にやくそうち)を備(そな)え、プラント部品や大型建設機械など重量物を専門(せんもん)に運ぶ。船倉内に入らない大きな貨物は甲板(かんばん)上に積んで運ぶので、甲板は強固に建造(けんぞう)されている。

